# 三年学年だより

No.11　２月号
令和５年１月　発行
３年９組担任・副担任

## 学生服から思うこと

２月となりました。松山中央高校の制服に袖を通す機会も数えるほどになりましたね。そこで、制服の歴史を紐解いてみると、制服の採用は、明治維新の際に軍人から始まったそうです。当時、海軍ではイギリス式、陸軍ではフランス式の制服に統一され、制服は、洋服としての機能性を重視したものであるとともに、権威を象徴するものであったとされています。この流れをくんでいるため、明治後期に学校に定着した男子学生の制服は、洋服・軍服を模型とした詰襟（いわゆる「学ラン」）が主流となり、女子の洋服としての制服の定着は、1930 年代まで待たなくてはなりませんでした（佐藤秀夫（1976）「学校における制服の成立史－教育慣行の歴史的研究として－」より）。時代が経つにつれ、制服の役割は、学生同士の経済的格差をなくすことや、学校への帰属意識や学生としての意識を高めること、更には、他校との差別化を図るための経営戦略としての役割が与えられ、ファッション性に優れたものも誕生しています（私の学生時代は、バギーやスケーター、ブーツカットなどが流行しましたが…）。

さて、私も詰襟の制服を着用しましたが、詰襟部分の裏側には「カラー」と呼ばれる白いプラスチックがあるのを知っていますか。衛生面への配慮と襟付きシャツを着られない学生への配慮から生まれた「カラー」ですが、その生産が 2021 年に終了していることをご存じですか。汗でペタペタする感覚が懐かしいのですが、「カラー」の生産終了を機に制服をブレザーへと切り替える学校も見られるようです。

さて、「カラー」の生産は終わりますが、企業は生産終了と同時に廃業はしないものです。これまで培ってきた技術と経験をもとに、時代の流れに応じて新しい分野へチャレンジを続けます。例えば、織機から自動車へ、フィルムから医療機器へ等、創業当時の主力商品が現在も主力商品であり続ける企業の方が少ないのではないでしょうか。

卒業まで一ヶ月となりました。皆さんもこれまで培ってきた知識と経験を武器に、時代の流れに応じて、時代に必要とされる学習にチャレンジしてほしいと思っています。最後になりますが、箱根駅伝の中継をご覧になった人も多いと思います。制服をりりしく着こなす学生の姿はかっこいいですね。最後まで松山中央高校の誇りを持って、制服を着こなしてほしいと思っています。　（３０９ＨＲ担任）

## “大丈夫”!!

この言葉は、松山商業高校から松山大学を経て、三井住友海上陸上競技部で日本の女子マラソン界を牽引してきた松山市北条出身の土佐礼子さんが、高校の後輩たちに送ってくださった言葉です。土佐さんは、２度のオリンピックと世界陸上に日本代表として出場し、世界陸上ではエドモント大会で銀メダル、大阪大会で銅メダルを獲得しました。非常に粘り強い走りで、多くの人を感動の渦に巻き込みました。そんな土佐さんが、高校駅伝に臨む後輩たちのために、この言葉を襷（たすき）に書き記してくださいました。私も、この言葉にとても感銘を受け、今も大切にしています。

進路実現のために、今も不安を抱きながら頑張っている人も多くいると思います。しかし、自分の目標を達成するために重ねた努力は、必ず報われるときが来ます。自分の力を信じ、ここまで支えてきてくださった保護者や先生方の激励に感謝しながら、迷うことなく一歩ずつ前に進んでください。めざすゴールは必ず見えてきます。しっかり駆けていってください。　・・・・**“大丈夫”!!**　（３０９ＨＲ副担任）